

写真甲子園 準優勝！



本校の写真部(顧問 池田玲 総括教諭)の鈴木茉凜さん、小林璃代子さん、長谷部綾乃さんの3名が、7月31日～8月3日までの4日間、北海道東川町で開催された第25回全国高等学校写真選手権「写真甲子園」で準優勝に輝きました。県内勢で準優勝以上の成績を残すのは初めてのことだそうです。

今年は513校が参加しました。神奈川が属する南関東ブロックからは41校がエントリーし、本校は6月のブロック審査で代表の5校には選ばれませんでした。代表を逃した中から全国で3校だけ選ばれる「選抜枠」に入り、

19校が進む本戦への出場権を得ました。

本戦出場は昨年に続いて2回目で、撮影は3日間。テーマは各日で異なり、初日のテーマはカラーで「色」、2日目はモノクロで「光」、3日目が「自由」で、各テーマ8枚の組み写真を出品し、プレゼンテーションを行い、合計点を競いました。初日はプロ写真家の審査委員から厳しいコメントをもらいましたが、2日目の「光」は、モノクロで提出することが条件で、日ごろからモノクロ撮影を中心にする3人にとって、実力を発揮する舞台となりました。前日は辛口だった審査委員からも高評価を得ることができました。最終日は自由というテーマなので、まちの中で見つけた風景や見過ごしがちな場所をすべてモノクロで収め、見事準優勝の栄誉に輝いたのです。



高校1年生、4人に1人が自宅学習していない！ 進路は平気か？

9月29日の新聞に標記のような見出しで、いくつかの新聞に記事が掲載されました。文部科学省の調査によると、高校1年生は中学時代と比べると自宅で勉強しない人が大幅に増えた結果がでたのです。

自宅や塾、予備校での勉強時間を尋ねると、高校1年生で平日に勉強を「しない」と答える生徒は25.4%、「1時間未満」は29.3%、「1～2時間」は27.7%という結果でした。中学校3年生の時点では「しない」と答えた生徒は6.0%で、高校進学後に大幅に自宅で勉強しなくなったといえます。

文部科学省の担当者は、高校での補習や部活動、アルバイトなどの要因が、学校外での学習時間の減少につながっていると指摘しています。

本校の生徒はどうでしょうか。この結果と同じ傾向ではないでしょうか。本校に入学するのに競争倍率が高く、中学時代には毎日自宅や塾で勉強していたと思います。しかし、今はどうですか。自らの進路実現を図るため、日々、少しずつでもよいから勉強していますか。

「日本人は勤勉」だということに、近年異議を唱える人が多くなっています。同じように勤勉といわれるドイツ人と比較すると大幅に労働時間が長く、けっしてドイツ人のような勤勉とはいえません。また、近年、東アジア諸国や地域の韓国、シンガポール、台湾の方が勤勉ではないかという意見もあります。特に、大学生については欧米や東アジアの学生より、日本の学生の勉強時間は非常に短いといわれています。

日米の大学生の学修時間を比較したものに2007年の調査があります。当時の調査(1週間あたりの学修時間)では、アメリカは11時間以上が58.4%、6～10時間が26.0%、1～5時間が15.3%、0時間は0.3%なのに対して、日本は11時間以上が14.8%、6～10時間が18.4%、1～5時間が57.1%、0時間は9.7%という結果がでています。また、ベネッセ教育総合研究所が2017年調査した「専門学校生の学習と生活に関する実態調査」によると、専門学校生の週平均学習時間は21.7時間、その内訳は14.5時間が授業への出席、3時間が予習や課題、2.3時間が学外実習やインターンシップ、自主的学習が1.9時間となっています。学外実習やインターンシップを除けば、自宅学習している時間は4.2時間となり、やはり5時間未満ですから、1日1時間にも満たないという結果がでています。

なぜ、日本の高校生や大学生は他国と比較すると勉強しないのでしょうか。まず、考えられるのが、勉強しなくても大学や専門学校に進学できたり、企業に就職できたりするからだだと思います。ただ、安易な進学は不本意入学を生み、退学や休学につながるケースが少なくありません。また、どこでもよいからと就職しても3年以内に退職するケースも少なくありません。安易な道を考えるのではなく、自らを高めるため、険しい道の登頂も考えてみましょう。なるべく広い選択ができるよう、日々努力することが大切です。1日1時間でもよいから勉強しましょう！